

のかと思っていたので、意外なナメや滝（水があれば）の出現に喜びたつ。水が涸れているせいか思ったより行動は早く進む。

現在地確認のため一度沢より上がり小休止。ここから先は高度感が増し、五〇分ぐらいのナメや小滝も出てくる。登山道出合までつめて沢登り終了。

（記・ツ）

〔タイム〕

白津川出合八・五〇―登山道二二・一〇

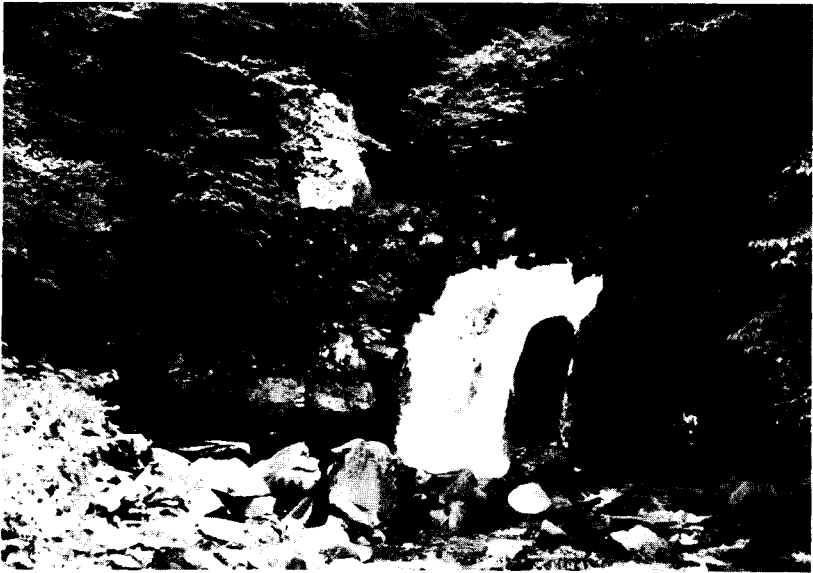
## 塩の川（下流部）

一九七五年七月二十二日

◆天気（曇一時雨）

土湯温泉行のバスを一寸張で下車。そのまま車道を登ると右に入る未舗装の車道があるのでそれに入る。車道が荒川に達した所に大きな砂防ダムがあり、その上が塩の川と荒川の合流点である。水量は荒川より塩の川の方が多かった。身仕度を整えて出発する。

明るい河原が続いて滝はない。やがて砂防ダムがあら



塩の川・思いの滝

われる。左岸を捲いてしばらくいくと今度は二重の砂防ダムがあり右岸に発電所がある。沢の水はあたたかく、多数のオタマジャクシが泳いでいた。更に一つ砂防ダムを越えると今度は工事中の砂防ダムである。左岸を高巻きしていったら、発破作業とかで三〇分程足止めされる。再度歩き出すと沢は次第に水が涸れてとうとう涸れ沢になってしまった。途中わずかに水のあらわれる所もあったが、発電用水の取水ダムまでほとんど涸れ沢であった。取水ダムのすぐ上にあるのが思いの滝で、それぞれ深い釜をもった一〇呎と一五呎の二つの大きな滝が連続し



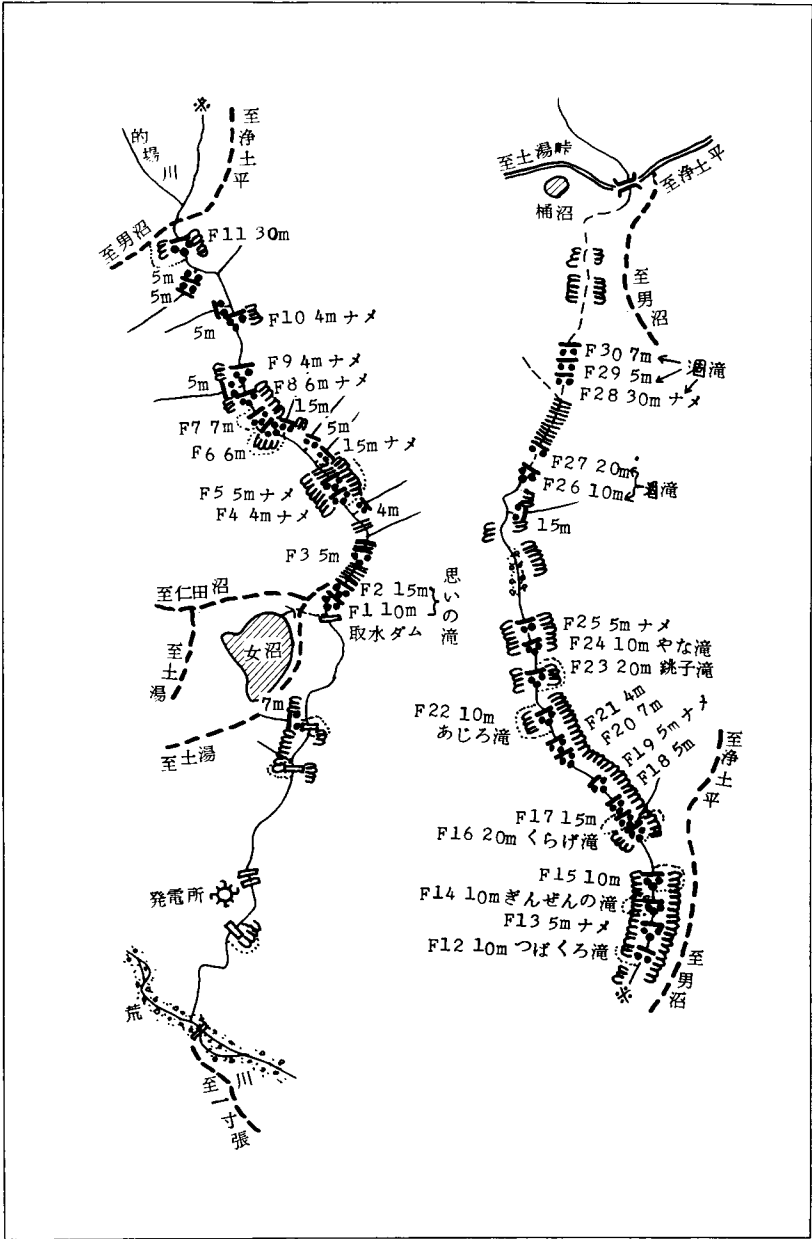
F 11・塩の川最大の滝

ている。ここは右岸に踏跡があるのでそれを利用する。ここからやっと沢登りらしくなり小さなナメをいくつも越えてゆく。左岸から小沢がいくつ流入するのを見送って先に進むと小さなゴルジュとなる。三つのナメ滝がかかっていて左岸を高捲く。また明るい沢となり、しばらくいくと二〇呎ほどの瀧にゆきあたり右岸を捲く。またゴルジュとなり六呎・七呎といった滝がかかる。この先は沢筋がまた明るくなっている。一三時一五分三〇呎の塩の川最大の滝にかかる。右岸を高巻きしていたら登山道に出た。

雨でズブぬれとなり戦意も鈍ったので、廻行はここで打ち切って男沼を経て下山する。(記・一)

〔タイム〕

一寸張七・三〇―塩の川出合七・五〇―発電所八・五  
五―思いの滝一〇・三五―登山道一三・三〇―男沼一  
四・一〇―土湯温泉一四・五〇



塩の川 (作区 )